

吹奏楽コンクール出場

「♪私たちの夏♪～12分間に想いを込めて～」

7月28日(月)29日(火)の2日間に渡り、第59回九州吹奏楽コンクール予選長崎県吹奏楽コンクールが開催されます。私たち吹奏楽部は2日目に出場します。コンクールとは12分間に「課題曲」「自由曲」を演奏し、その演奏を評価されるものです。この12分間の演奏を成功させるため、多くの時間を費やし一生懸命取り組んできました。他校に比べ部員数が少ないため、音の厚みや迫力等で劣っている面はありますが、自分たちの力を十分発揮できるように、そして悔いの残らないように「12分間に想いを込めて」精一杯演奏したいと思います。

先日、私たちはコンクールに向け2泊3日の強化合宿に行ってきました。環境にも恵まれ一日中楽器を吹くことができ、充実した合宿となりました。

課題曲は「斎太郎節」の主題による幻想。自由曲は吹奏楽のための交響詩「ぐるりよざ」です。この曲は平戸生月島の「隠れキリシタン」の話の元に作曲されており、長崎ぶらぶら節や対馬蒙古太鼓のリズムなど長崎のいろんな文化が取り入れられている壮大な曲です。お世話になった方への感謝の気持ちを忘れず、私たちの夏を「金賞」という形で締めくくりたいと思います。(吹奏楽部顧問 大小瀬 泉子)



全国高総文祭選抜出品

「全国大会へ最多連続選抜出品を更新中！」

昨年の12月、平成25年度長崎県高等学校総合文化祭美術展(高校美術展)が行われました。審査の結果、デザイン部門全187点中、1・2年生の中で上位2点に入り、7月末に茨城県で行われる全国総合文化祭美術・工芸部門茨城大会に長崎県代表として選抜出品されることになりました。本校として、美術部・陶芸部で11年連続の全国大会選抜出品となります。長崎県の高校では、全国大会へ最多連続選抜出品を更新しています。

本人は、「審査の翌日、顧問の先生から全国大会に選抜されたことを聞き、本当に信じられない気持ちでいっぱいでした。今回の作品は、嫌がることを押しつけられた人の心の叫びを、水彩絵の具を使って表現してみました。この作品を見た人が、何か共感できるものを感じてくれたら嬉しいです」とコメントしています。

- 平成25年度長崎県高等学校総合文化祭美術展 デザイン部門 優秀賞
- 平成26年度全国高等学校総合文化祭 美術・工芸部門 長崎県代表選抜
3年3組 高橋 一輝(たかはし かずき)
題名「押し付けていませんか」
(美術科 岩永 聡志)



〈校訓〉 自律・積極・究理

波高通信



〈スローガン〉 人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第4号 平成26年7月18日発行

校長室より

「いつも元気に」

陶芸の庭、図書館や校庭そばに植えられたポチュラカが、赤、ピンク、黄色、白など色とりどりの花を咲かせています。これは、保健美化委員会と野球部の皆さんが先月、汗を流しながら花壇を耕し肥料をまいて、植えたものです。波高12策の一つである「学舎は花いっぱい美しく～1000本の花を育てよう～」の一環でもあり、ポチュラカの数は580本もあります。現在、鮮やかな花を毎日咲かせ、私たちの目や心を楽しませてくれています。

いよいよ夏休みに入ります。高校を卒業したら、社会にはこのようにまとまった休みはありません。勉強、部活動、読書、何でもいいから、「この夏はこれをやるんだ」と心に決めて、夏休みを過ごして欲しいと思います。全学年とも、自分の夢と可能性に向かって果敢にチャレンジしていく土台となるような、意義深く、充実した夏休みにしてほしいと思います。

ポチュラカの花言葉は「いつも元気」、大きな特徴は、暑さに強くて炎天下でもめげずに成長し花を咲かせるということです。また、花の一つ一つは小さいけれど寄り添えばとても大きな花に見えます。皆さん一人一人も、「チーム波佐見」という大きな花を作り上げる一つ一つの花です。いつも元気に、汗を拭き拭き、暑さに負けずこの夏を乗り切ろう！がんばれ波高生！(野田 定延)



鴻の巣塾

「あ～夏休み」

7月16日(水)、FMながさきのメインパーソナリティー、DJ Mark氏を迎え、「波佐見高校教養セミナー 鴻の巣塾」が開催されました。波佐見町出身のMark氏は、講演開始5分後には、壇上から降りて生徒席を歩き回るといった斬新なスタイルで、聴衆の生徒たちを沸かせました。時折、生徒にマイクを持たせて、質問を促すというやり方も楽しいものでした。最後に、夏休みを計画的に過ごせるかどうかで、「あぁ、夏休み」が満足の言葉となるか、ため息の言葉になるかの分かれ目になるということを示されて、盛況のうちに講演会は終了しました。

(教務主任 安達 健)



8月の行事予定

- 8月 1日(金) HTBインターンシップ 発表会
- 8月 6日(水)～8日(金) 日本画集中 講義(美術・工芸科)
- 8月 8日(金) オープンスクール
- 8月 9日(土) 登校日(平和学習)

8月16日(土) 波佐見高校同窓会総会

- 8月19日(火) 県教育長本校訪問
- 8月27日(水) 始業式・大掃除・ 体育祭練習
- 8月28日(木) 体育祭練習
千綿中PTA本校訪問
- 8月29日(金) 体育祭練習

保護者による進路講話

保護者による進路講話を実施しました！

7月9日（水）6校時、母の会より松永佐百合様と中野佳代様を講師としてお招きし、保護者講話を実施しました。松永様は、高校3年の時から准看護師を目指して勉学に励まれ、進学後も看護師を目指して、働きながら看護学校に通われたこと、看護師は挨拶や心のバランスをとることが大切であることなど、具体的に話していただきました。

中野様は、仕事柄、保育士は中腰の姿勢を取らないといけないので、体力的に大変な面があること、仕事上、おしゃれができないこと、園児や保護者とのコミュニケーションが大切なこと、子どもの指導記録を毎日取る必要があることなどを、分かりやすく語っていただきました。

（3学年主任 田尻慎二）



進路フェスタ（7/4 シーハット大村）

バーチャル就職試験にチャレンジ

3年生全員、2年生進学希望者4名が参加しました。就職模擬試験を他校生と並んで受験しました。（写真右下）

また、進学希望の生徒は、各学校の説明を聞いたり、職業体験をしました。（写真左下）

（進路指導主事 宮崎 恵）



長崎大学出張講義（7/9）

大学の講義って思ったより面白い！

長崎大学産学官連携戦略本部副本部長の嶋野武志教授（人材育成部門）をお招きして、究理倶楽部と2年Bコースを対象に出張講義を実施しました。テーマは「長崎県の産業の未来」。13世紀初頭の神聖ローマ帝国皇帝フリードリッヒ二世の優れた外交手腕の話と、世界新3大夜景に選ばれたという長崎の夜景の話を導入に用いて、長崎県の産業の特徴、企業の経営者としての陥りやすい間違いなど、幅広い話題を見事な話術で、生徒にも大変わかりやすく説明していただきました。テーマからすると大変堅苦しい授業のイメージでしたが、生徒の大変熱心に聞き入っている様子が見え、きりりとわかるほど興味深い授業でした。

次は11月14日に実施します。講師は同じく嶋野教授です。

（進路指導主事 宮崎 恵）



1年進路講話（7/11）

未来の夢の見つけ方

これは、リクルート福岡店から来て頂いた進路講話のタイトルで、ここで言う夢とは仕事のことです。笑みもあり、一人一人が自分のこととして考えることができるお話でした。

「やりたいことは知っていることからしか選べない」→知識（選択肢）を増やそう！

「やりたい仕事をする（辞めないため）には」→自分自身を知ること

以上の2点を中心に話がありました。

また、企業が求めている人材（能力）とは
大学卒 1位：コミュニケーション能力 2位：主体性 3位：チャレンジ精神

高校卒 1位：協調性 2位：コミュニケーション能力 3位：基本的な生活習慣

ということでした。生徒一人一人が自分の個性を世の中で十分に活かすことができるように、学校で社会人としての基礎力を身につけさせたいと思います。

「1年目に種をまき、2年目に水をやり、3年目には花を咲かせましょう」（1学年主任 川瀬 啓典）

デートDV防止教室

7月9日（水）5～6時間に1年生を対象に保健講話実施しました。「対等な関係をつくるには」と題しNPO法人DV防止ながさきの岳村由美子様と小倉萬智子様のお二方に、デートDVやDVとはどのようなものか、またその防止について講話をいただきました。

講話の主な内容は、生徒達が実演形式でデートDVの会話を発表したり、パワーポイントによる説明、DVDの上映など分かりやすく、生徒たちも十分に理解できたと思います。

NPO法人DV防止ながさきのお二方には台風8号直撃の悪天候にもかかわらず、心のこもった講話をいただきました。

（保健美化主任 得永 健）



美化コンテスト

保健美化部では学習環境の改善を目標に、昨年度より学級対抗の美化コンテストを実施しています。日常に清掃チェックにはない美化コンテストの最大の特徴は、生徒（保健美化委員）自身の目でチェックすること、先生方にも内緒の『抜き打ち』で実施すること。これにより日常の教室の様子を見ることができ、生徒の皆さんの環境に対する意識を高めていければ、と思っています。

6月19日に、今年度最初の美化コンテストを実施しました。どの教室も清掃が行き届いている一方、多くの教室で「机の落書きが目立つ」「教室後ろのロッカーが整理されていない」といった共通する問題点も見えてきました。

今後コンテストを繰り返す中で、こうした問題点を少しでも解決できれば、と思っています。（保健美化部）

性について考える

7月8日（火）2校時、2年生を対象に、長崎県県央保健所から2名の保健師さんをお招きして開催しました。

講話に反映させるため実施した事前アンケートでは、男子は「身体・発育」「男女の違い」、女子は「妊娠・出産」、男女共に「エイズ・性感染症」に関心が高い傾向にありました。

「波佐見高校の2年生に伝えたいこと、自分と相手を大切にできる性」として、講師の樋口保健師さんは「男女の身体の仕組み、妊娠、出産、避妊」、脇川保健師さんは「性感染症」について、たくさんの資料を使いご講話くださいました。

保健美化委員 内川元気君が「性について深く考えることができました。学んだことを役立てて、自分も相手のことも考えて行動したい」と感謝の気持ちを述べました。（保健美化主任 得永 健）



波佐見中学校と作陶交流学習

7月15日、波佐見町主催の中高連携陶芸教育を実施しました。本校陶芸デザインコース3年生（17名）と波佐見中学校1年生（167名）との交流学習は、平成17年度から開催されており、今年度で10年目となります。

活動内容は、波佐見焼の原料である磁器土を用いたマグカップの制作。中学生がデザインしたアイデアスケッチを基に作品制作の補助を行いました。

最初は緊張していた本校生徒たちでしたが、作陶交流を通して会話も弾むようになり、教室の雰囲気も和やかになりました。

この行事を通して、中学生の発想の豊かさや真剣に制作する姿勢に感心させられました。また、各自の制作に対する気持ちを改めて振り返る貴重な機会となりました。（美術科 立井 匡樹）

